

- 2008年記録会は10月26日(日)グリーンパーク(9:00～12:00)です！
- 2008年記録会は11月16日(日)未定 (9:00～12:00)です！

9月に入って、急に西高東低冬型の天気になって涼しくなりました。そうなればヒコーキに心がうずきますので、近所の田んぼに稲刈りの様子を見に行ってきました。稲刈りは8割終わってはいるものの、ところどころに稲が残っています。そこで飛ばす事を考えると、丁度稲が残っている辺りにヒコーキが降りそうで、しぶしぶ飛ばすのを諦めて帰ってきました。

そこで1日おいての日曜日、自宅から40分ほどの離れた、400m×500m程度のやや狭いですが地盤改良地(元田んぼ)に飛ばしに行きました。A会長、A老人の3人でしたが、HGLやライトプレーンを飛ばすには十分な広さです。大型HLGやLPのフル巻きが出来るという事は素晴らしいストレス解消で、それぞれ満足して帰ってきました。これで今秋も発狂もせずにシーズンがむかえられます。

記録会報告	①②08年8月記録会HLG/PLG、	③④08年9月記録会HLG/PLG、
	⑤まったけ大会報告	
お知らせ	⑥20年FF選手権競技案内	⑦ミニ国際級大会案内
	⑧栃木大会案内	
FFサロン	⑦レイノルズ数の壁	⑧カタパルト機の空力係数 石井満
	⑨F1B情報	⑩ピラタス・ポターの製作 平尾
雑談天国	⑪極西の国・日本	
編集後記	⑬	

◆2008年8記録会の結果(HLG-B/CLG)

8月HLG記録会報告

平尾……①

8月は年一回、恒例のちびた号大会である。千葉では降っていなかったが、武蔵野では予定外の小雨で野原はぬれて足元も悪かった。いつもなら暑い暑い記録会なのですが、この日は前夜の雨のおかげか涼しい1日でした。こんな環境の中では地元の人にはマバラ、しかしランチャーズは18名と人数のみは立派でした。おかげでこの日ランチャーズ借り切りの状態で、気楽に楽しめました。涼しいしが小雨でヒコーキは飛ばないし、記録会は早々と終わりました。

普段、田んぼで飛ばしている我々から見るとこの公園は狭いが、FFのメッカとしてグリーンパークは全国的に有名である。日頃アチコチの公園で頑張っているヒコーキ屋から見ると、ここはまことに広くイイ場所である。特に5～8月のうさ晴らしをする場所としては大切な場所でしょう。今のランチャーズの優れているところは、若くしてこの有名なグリーンパークを基地として育ってきたという環境にある事を忘れないで欲しい。てなこと、もったいをつけて…。

さて、全体の記録はやや低調で150秒超はたった一人だった。全選手で180回投げて5回しかマックスがないのは雨での投げにくさによるものか、又は単なるデサーマルなのか。そこを考えると150秒は立派な記録である。しかも、そのたった一人150秒超の選手が相沢会長となると、これはもう記念すべき出来事である。2位にはひそかに小型機での優勝を狙っている稲葉選手が来た。しかし、1位と10秒の差は大きいぞ。3位は下手投げですっかり定着してきた今関選手、これは翼端投げと違って胴体を握って投げるので、特別メリットはないのだがつねに上位にきて、気になる存在である。

4位は取り得が若さしかない菅野選手、5位は投げが安定しているのに最近目立たない井村選手、6位はいつも記録表のトップに名を書く吉田選手、賞品が気に入らないとトップには来ない。

7位は三俣選手、ポケット付きのズボン以外は特色はないが成績はジリジリと上昇中。その他ではちびた号元祖・田中選手、まだ屋外生活に馴染んでなく不調のまま、大八木選手はレンタルの機体を使いこなせず、三田選手は飛び跳ねる力がヒコーキに伝わっていない。ちびた号の大きさと振投げのメリットよりも、引っかけでドスンが多くあきまへん。以下省略します。

8月HLG記録 8月17日グリーンパーク 晴 26度風3m 40秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	相沢泰男	16	40	35	21	20	19	19	15	40	15	156			156
2	稲葉 元	22	40	24	28	31	21	19	21	22	23	146			146
3	今関健一	39	21	39	04	12	15	18	05	24	01	141			141
4	菅野俊行	19	17	15	21	23	40	25	25	22	26	139			139
5	井村真三	13	14	38	19	23	17	20	28	19	28	137			137
6	吉田利徳	14	15	22	27	21	25	22	20	40	20	136			136
7	三俣 豊	28	25	17	29	10	27	22	16	25	15	134			134
8	吉岡潤一郎	19	29	24	25	19	25	25	14	16	21	128			128
9	小林雅文	24	26	14	14	16	28	20	14	05	29	127			127
10	石山芳彦	16	18	22	17	17	37	05	05	19	22	123			123
11	池田 昇	40	15	06	11	15	06	17	22	27	16	122			122
12	木立猛彦	19	25	20	14	34	16	09	13	12	09	118			118
13	田中 晋	05	24	18	19	19	17	04	25	08	17	105			105
14	大八木重信	18	05	16	04	16	23	19	16	21	17	98			98
15	平尾寿康	09	16	03	12	28	14	22	15	02	04	95			95
16	大島 廣	04	19	19	14	12	13	11	19	20	17	94			94
17	星野 聡	13	15	18	13	13	01	13	12	12	25	84			84
18	三田祐一	01	06	01	12	06	01	06	16	12	17	63			63

8月PLG記録会報告

(平尾)・・・②

まずいことに河田さんのレポートが見つかりません。すでに会報に書き込んだものと思って原稿も捨ててしまったようで、すみません。

この日は暑くもないのに、ちびた号大会なのでヒコーキを持っていないせいか人が集まらず4人の記録会になりました。しかし、勝ちたい人だけの集まりでバンバン打ち上げたものの、ゴムは1グラム以下だし、パチンコ専門機ではないだけに結構ガタイの大きいちびた号は飛ばない。上がれば大きい分ソコソコ飛ぶはずですが、この日は気流がやたらと悪く残念ながらオールマックスは無し。とは言うものの180秒以上が3人/4人ですら、それぞれの実力はシッカリしたものでした。

この日の成績を見ると、石井トレーナー機は、よく出来ていますね。ま・石井英夫氏が10年もかけて開発したのですから、当然かもしれないが。

8月PLG記録 8月17日 グリーンパーク 晴 26度風3m 40秒MAX 5/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	10	合計	F1	F2	総計
1	河田 健	35	26	40	40	22	22	40	28	16	40	195			195
2	原 国光	24	06	40	40	40	40	20	18	28	26	188			188
3	工藤陽久	21	30	29	16	40	26	40	40	10	31	181			181
4	斉藤竹彦	07	36	16	25	20	32	21	09	19	40	148			148

◆2008年9記録会の結果(HLG-B/CLG)

9月HLG記録会報告

平尾・・・③

大宮田んぼが使えないので9月というのにグリーンパークでの記録会になりました。さすがに9月となるとソコソコ涼しく集まりも良く18名の参加です。どんよりした雨の臭いがする中、身障者の平岩さんも飛び入りして短時間集中型の記録会でした。そして、うまいぐわいに競技が終わるや否やの雨で集合写真は雨の中。この日幸いに風もなく、よわいサーマルがパラパラの、まさに公園競技会日和で、その上40秒マックスですから勝負も早い。9時に初めて10時には大半の選手が競技終了、しかもこの短い時間に150秒超が14人/18人、しかもオールマックスの選手もいるという素晴らしい成績でした。しかし、室内HLGの世界記録保持者・石井満氏はこの日136秒ですから、来ていたのがホントウに彼本人なのか疑問がわくのですが・・・。

今回初優勝の稲葉選手、大型機では勝てないのでこの日が最後のチャンスと狙っていたらしい、おめでとう。2位は鉄筋？(鉄腕)の三俣選手、彼も勝つ条件そろっているので、年内にカップを取れるかどうか、残念な事に大理石のカップは今年いっぱい無くなりそう・・・、どうする。

3位は私の天敵・菅野選手、なんだかんだ言いながらまとめてくるところは立派。4位にキマシタ、サブプライムローンで儲けている木口選手、この日紙ヒコーキを投げていたがスゴイ高度。5位は口数が多いが下手投げの今関選手、振り投げではないのに投げが安定しているのは口のせい。この日唯一の振り投げ・平尾は気流が読めずに同率5位は残念。7位は1秒差で池田選手、この日は声の出が悪かった。8位吉田選手、結構大型のHLGを投げていたが記録は今一。9位に星野選手、中間盛り上がり2マックスまでいきながらの息切れ。10位井村選手、高度もイイ、飛行機もイイのに色気が足りないのかな。10位以下で注目は小林選手、紙を投げていたが高度がスゴイ、しかし、ヒコーキの出来が今一で乗り切らず。トビハネの三田選手はちびた号を投げていたがゼンゼン飛び跳ねなかった。相沢会長は連勝を狙ったがヒコーキが寝ていた。会長と同じヒコーキで、もぐらの平岩選手は飛び入りで投げたのだが、ダンダン良くなってきたところで相沢会長と同タイムで終わり。大型ちびた号を飛ばす田中選手は練習不足・・・。久しぶり参加の宮辺選手は体重を減らすべき・・・。

9月HLG記録 9月21日グリーンパーク 曇り 28度 風0～2m 40秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	稲葉 元	35	39	30	40	40	40	39	35	40	40	200			200
2	三俣 豊	18	40	36	35	35	40	40	30	36	30	192			192
3	菅野俊行	38	20	40	40	25	36	33	25	24	20	187			187
4	木口雅之	21	32	40	40	25	26	34	26	37	19	183			183
5	今関健一	35	31	19	40	26	37	25	16	23	38	181			181
5	平尾寿康	24	32	31	19	22	40	34	20	40	35	181			181
7	池田 昇	26	40	33	35	35	34	29	26	37	24	180			180
8	吉田利徳	35	20	20	27	24	30	38	33	40	32	178			178
9	星野 聡	25	34	04	33	30	40	40	25	09	14	177			177
10	井村真三	29	40	19	18	36	28	25	31	34	34	175			175
11	平岩 保	18	26	23	26	20	32	28	40	31	40	171			171
11	相沢泰男	29	28	40	21	29	18	19	13	35	38	171			171
13	大八木重信	17	31	40	15	28	26	26	30	27	24	156			156
14	小林雅文	05	26	22	40	02	27	23	28	27	31	153			153
15	三田祐一	33	15	19	25	28	26	16	31	21	20	143			143
16	田中 晋	31	33	32	23	22	06	04	24	12	19	142			142

紙

紙

17	石井 満	21	17	13	34	23	05	39	19	04	19	136		136
18	宮辺康治	11	16	19	10	25	17	19	17	22	23	108		108

9月PLG記録会報告

河田、平尾……④

余裕で5MAXを出した4人が第1F. Oで2人残り、上限なしの一投勝負の第2F. Oを制したのは工藤さん、一秒差の斉藤武彦さんの初優勝のお預け。勝山さんの無尾翼機は4MAX、シンプルな翼端半円翼の倉田号は2MAX、一グラムゴム用としては大型。(Sw:2dm²、10g)のやまめ工房の楕円翼機は3MAX、その他に小型紙飛行機と様々です。F. Oに残った石井英夫先生設計の有名なトレーナーと2段上反角のトレーナーは垂直上昇で十分高度を取れるので屋外のPLG競技に最適な機体の一つでしょう。

この日の参加者は12名と久しぶりに大勢でした。そして河田さんの打ち上げを見ていると、公園としてはもの凄い高度で、これでは無くなる確立は高いでしょう。選手の中には翼がよじれて真っ直ぐには上がらない機体もあって、これは強度不足、バルサ比重なり塗装なりに注意しましょう。無尾翼機では佐藤選手欠席で勝山選手のみ、なかなか見事な高度でもう少しでパーフェクトの雰囲気、しかしいいところまで行くのですがそこからが難しいのが無尾翼機です。又、地元の超小型紙飛行機が参加していましたが、打ち上げ直後は小さくて見えないので困った。はたして選手本人は見えているのかね。小型機は高度は取るものの小さいだけにスイスイと降りるのでマックスは難しい。

9月PLG記録 9月21日 グリーンパーク 曇り28度 風0～2m風 40 秒MAX 5/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	10	合計	F1	F2	総計
1	工藤陽久	40	40	40	40	40						200	56/60	71	331
2	斉藤竹彦	35	40	40	27	40	40	40				200	48/60	70	330
3	原 国光	36	34	40	40	35	40	40	40			200	54/44		254
4	河田 健	24	40	40	40	40	32	40				200	46/46		246
5	勝山 彊	17	40	36	40	20	37	35	40	40	35	197			197
6	嘉部 保	40	36	40	29	31	22	25	15	35	40	191			191
7	岩淵康司	36	36	34	37	31	40	32	26	33	37	190			190
8	斉藤義幸	40	38	28	32	40	34	34	40	37	27	185			185
9	石井 満	04	40	26	24	37	25	04	27	40	40	184			184
10	倉田泰蔵	31	25	24	35	08	32	26	40	27	40	178			178
11	小野 博	21	15	34	30	27	27	29	33	40	40	177			177
12	斉藤パパ	40	03	29	32	18	31	25	21	32	24	164			164

◆2008年まったけ大会報告・HLG

平尾……⑤

9月28日(日)鈴鹿市池田の田んぼで、伝統のまったけ大会が開催された。今秋伊東君も私もほとんど練習が出来ていなかったのも、彼に迎えに来て貰って早めの7時前には飛行場に到着した。石井満君は寝ないで早くに着いていて、すでに練習をしていた。伊東氏と石井満君2人の練習を見ていると2人とも見事な高度を取る。こうなると回転投げで足がもつれる様では勝てなそうにもないが。

ここ3年ほどはおだやかな競技日和で、さっそく練習開始。こうも風がないと回収も楽で、これで勝てれば文句なしだが、そんなには巧くいかないもの。8時半の競技開始までにボチボチと選手が集まってきて、HLGは9人とまずまずの参加者だが、その内野球投げはわずか3名と少数派になってしまった。各選手の高度を見ていると、伊東、石井満、毛利、岡本の各選手の順、地上からの計測でベストは35メートル付近のようだが、ドジルとタチマチ30メートルまで落ちる。伊東選手は練習不足なのか返りが不安定、回転投げではないがバカ力の石井満氏の高度もすごい、機体の歪みもすごく見て

いて恐いぐらい。この日の気流だと伊東、石井満氏の高度だと60秒は問題なしだが、私の高度だと60秒には少し足りない。

8時30分競技開始、今大会初参加の石井満選手が早々と5投オールマックスと世界記録保持者の貫禄を見せた。続いて毛利選手、伊東選手と続いて最後に岡本選手が残って4人／9人がオールマックス。野球投げ園田選手は前半良かったが、後半悪くオールマックスならず。その後11時から15分間1投のみの2分マックスフライオフとなった。この日は大きなサーマルは少なく、結局は伊東選手の74秒が最高で勝負がついた。オフに残っても4位はきついね。

機体では伊東選手が新作をゴロゴロ持ってきた。まだ調整は完全ではないが、なんと彼のHLGが滑空するようになってしまった、ああ・悲劇、進歩はいかんよ、進歩は……。石井満氏の機体は静止気流性能は抜群だが、気流が荒れるとストンドスンでみんなを喜ばした。毛利選手の機体はまだ練り込みが足りないが、滑空はイイ、あと上昇抵抗を減らす工夫が必要である。HLG歴1.5年子連れの岡本選手、機体は春山モデルで綺麗に作っていた。園田選手、競技終了後自作のUHLGを持ってきて練習開始、投げ方も良さそうで次の大大会は野球投げが1人減か。掛山選手はこれまで通りの小型HLGで頑張っているが、成績から見るとあとしばらくは大丈夫のようだ。小笠原選手は70センチクラスのUHLGを投げているが機体が今一である。

今後の課題であるが、1メートルを超す機体と40センチクラスが同じルールで競技をするのは、たしかに違和感がある。HLGを3つに分けて、Aクラスは無制限、Bクラスは70センチ以下、Cクラスは36センチ以下としてハンデを付ける案等如何ですか。以上HLGにかぎっての報告である。記録も勝手にミニ国際級とHLGのみとした。

E. F1J級

順位	氏名	1	2	3	4	5	合計
1	吉川 強	120	120	120	120	120	600
2	増田哲司	120	120	44	120	120	524
3	岩村慧一	42	99	105	120	120	486

R. F1G級

順位	氏名	1	2	3	4	5	F1	合計
1	吉田 潤	120	120	120	120	120	195	795
2	中田光恭	120	120	120	120	120	89	689
3	大塚恵司	107	120	120	120	120		587
4	三留益良男	112	108	46	120	120		506

G. F1H級

順位	氏名	1	2	3	4	5	F1	合計
1	高橋浪男	120	120	120	120	120	240	840
2	熊井恒雄	120	120	120	120	120	163	763
3	中川浩伸	63	83	80	120	94	440	
4	山田 繁	45	40	56	27	7	175	

HLG級

順位	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	F1	合計
1	伊東哲男	60	60	60	55	60	59	60	60			76	376
2	毛利 修	60	49	60	60	60	60					66	366
3	石井 満	58	60	60	60	60	60					64	364
4	岡本 淳	60	60	42	60	60	60					28	328
5	平尾寿康	51	45	60	58	54	60	49	60	56	54		294
6	掛山吉行	49	49	60	57	45	60	38	60	38	51		288
7	園田宏樹	54	60	32	60	30	44	60	34	50	39		284

8	小笠原憲夫	32	60	41	40	58	5	54	60	40	8		274
9	岡本 陸	15	24	38	37	32	31	39	49	29	23		195

お知らせ

● 平成20年度模型航空FF・F1A, F1B, F1C 日本選手権要綱 の一部

主 催	日本模型航空連盟 公認 日本航空協会
期 日	平成20年11月1日(土)2日(日)3日(月)、場所・千葉県香取郡干潟町万歳
種 目	フリーフライト F1A, F1B, F1C、規定はFAIスポーツ規定に準拠
選手権委員長	日本模型航空連盟会長落合一夫、競技委員長 FF委員会委員吉田利徳
競技副委員長	FF委員会 坂巻敏雄(F1A) 小林茂夫(F1B) 津田晃英(F1C)
陪 審 員	日本模型航空連盟 理事長 落合一夫
競 技 役 員	会 員
競 技 方 法	競技は2008年発効のFAIスポーツ規定に準拠した公式飛行と決勝飛行を行い、選手権者および順位を決定する。天候などの状況によって競技を延期または中止することがある。延期の場合は追って発表する。
世界選手権候補	平成19年度、20年度の本選手権の持ち点を合計し、合計点の上位より順番に次回世界選手権の日本チームの選手となる資格が与えられる。
持 ち 点	1位－12点、2位－9点、3位－7点、4位－6点、5位－5点、6位－4点、7位－3点、8位－2点、9位－1点
宿 舎	国民宿舎・食彩の宿い・いおか(飯岡荘)千葉県旭市荻園 1437 0479-57-2661
日 程	11月1日(土)16～17時受付、17時30分開会式およびミーティング、18時夕食 11月2日(日)F1B。1ラウンド7:00-7:55～7ラウンド13:00-13:55 フライオフ(1)14:30-14:40 フライオフ(2)15:10-15:20 11月3日(月)F1A、C。1ラウンド7:00-7:55～7ラウンド13:00-13:55 フライオフ(1)14:30-14:40 フライオフ(2)15:10-15:20、その後閉会式 日の出 6:04 / 日の入り 16:42
連 絡 先	各団体のFF委員、事務局、委員長へ、又はFF委員会事務局 田久保潤一 090-3227-1744、委員長中澤正雄 090-7728-9894

● 平成20年度FF国際級〈F1G・H・J〉HLG・LP競技会要綱

⑥

1. 主 催	日本模型航空連盟
2. 大会委員長	日本模型航空連盟 会長 落合 一夫
3. 競技委員長	FF委員会 委員 高田 富造
4. 競 技 役 員	FF委員会委嘱
5. 期 日	平成 20(2008)年 11 月 23 日(日)、雨天の場合は11月30日(日)
6. 会 場	大中田んぼ(滋賀県東近江市能登川町大中)
7. 種 目	フリーフライト国際級F1G,FIH,FIJおよびHLG-A、HLG-B、LP (F1G,FIH,FIJには国内級機体での出場は不可)
8. 参 加 資 格	当日有効の模型飛行士登録者
9. 申 込 方 法	郵便振込み用紙に必要事項を記入し期日までに下記に申し込むこと。 郵便振込 口座番号 00990-0-154816 加入者名 今村利勝 郵便振替払込受領書を受付へ提示のこと。なお、いったん納した参加費は理由の如何を問わず返却しない。

- 10.申込期間 平成20(2008)年10月9日(木)～11月6日(木) (消印有効)
- 11.参加費 2,000円(1種目、2種目は3,000円)、中学生および小学生は500円
- 12.規定・競技の方法 F1G、H、JはFAIスポーツ規定に準拠し5ラウンドの競技を行う。同タイムの場合は決勝飛行を行い順位を決定する。最大計測時間は第1ラウンドは3分、第2ラウンド以降は2分とする。F1Jのモーターランは5秒とする。また、最大計測時間、モーターランを変更することがある。HLGについては、最大計測時間60秒(第1ラウンドは90秒)の飛行を1ラウンドに2回飛行し、飛行時間の長い飛行をそのラウンドの公式飛行として5ラウンドの総計で順位を決定する。タイの場合決勝飛行を行い、順位を決定する。LPについては5ラウンドの競技を行う。最大計測時間は、第1ラウンド2分、第2ラウンド以降は1分とし、5回の合計で順位を決定する。タイの場合は決勝飛行をおこなう。LPに関する特別規則:競技会場の状況を考慮しフリーフライト国内級規定15条に基づき特別規則を付加する。①動力ゴム5g以下、②可変機構を伴わない空転プロペラ使用。
- 13.競技予定 6時30分～7時10分/現地受付。7時15分/開会式。7時30分/
- 14.保安・損害賠償 人畜、土地、建物その他の物件に対し競技その他により損害を与え賠償が必要な場合は、参加者が全額を負担する。
- 15.機体検査 随時検査を行う。不合格の場合には、それ以前の記録は全て無効とする。
- 16.選手の責務 選手は計時員の補助員または計時員として計時に協力すること。
- 17.連絡先 各団体のFF委員又は競技実行委員 今村 利勝
〒612-8495 京都市伏見区久我森の宮町 10-102 TEL090-1155-0904
- 18.機体の規格、 振込用紙の通信欄に以下の項目を記入のこと・種目:F1G、F1H、F1J、HLG-A、HLG-B、LP・JPNナンバー

● 平成20年度栃木スカイフレンズ競技会案内 予定

⑦

- 1.開催日 平成20年12月7日(日)
- 2.会場 小山市大字鏡地内田んぼ
- 3.参加費 1種目当たり2,000円、ただし2種目からは、1,000円
- 4.競技受付・開始 午前8時0分～8時20分、開始8時30分～10時30分(但し1Rは10時まで)
- 5.競技開始 午前8時30分～午前10時30分(ただし、1Rは午前10時までとする)
- 6.保安 デサマライザーに火縄を使用する機体は火縄の落下しない機構とすること。
- 7.競技種目方法

H L G	1投、60秒で、10投中上位5投の合計タイムで行う。 F0は120秒→180秒
市販ライトプレーンA	1～3R、60秒/Rで行う。F0は120秒→180秒
ラバーパワー・オールドタイマー 被服胴車輪付折ペラ不可	1～3R、60秒/Rで行う。F0は120秒→180秒
エンジンオールドタイマー 被服胴、車輪付 1945年以前の機体が望ましい	1～3R、60秒/R。F0は120秒→180秒(エンジンランはディーゼル及びイグニッションエンジンが、1cc未満20秒以内、1cc以上は5秒以内、グローエンジンは10秒以内とする。但しタイマー制御来ない場合、20%以内のオーバーランは認める。)
フライングスケール	1～3R、60秒/R。F0は、120秒→180秒

- 8.損害賠償 人及び畜類土地建物その他に損害を与えた場合は、当該選手が補償する。
- 9.その他 ①選手は計時員の補助員とし競技運営に協力すること。
③出場人数の把握しますので11月20日までに次のところへ連絡ください。
〒323-0827 小山市神鳥谷1853-10 鈴木俊和

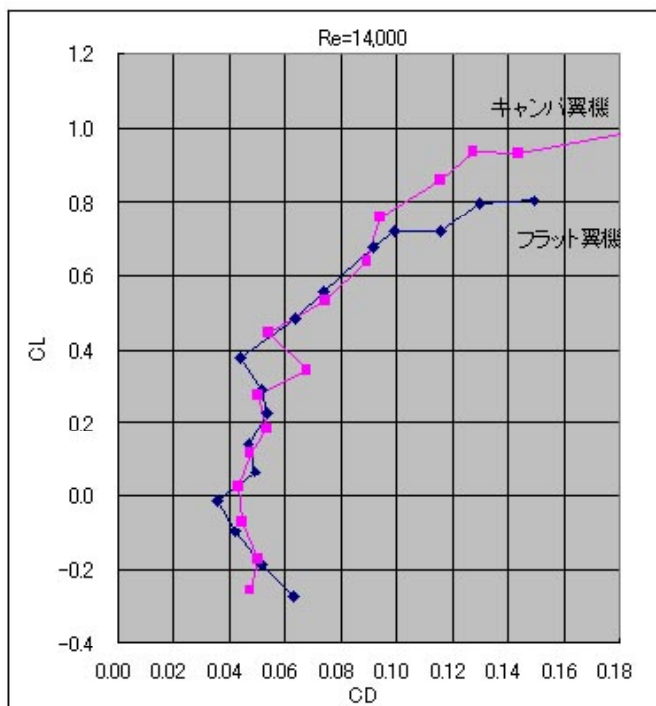
FF文化サロン

今回は掲載する記事は3つのレポートは、いずれも石井満氏のブログ「やまめ工房の日記2」よりの転載である。ここに使用されているグラフは、明石工業専門学校の小池教授と石井満が協力して実施した風洞実験によるデータを石井満氏がまとめたものである。

■ レイノルズ数の壁

⑩.....石井満

今朝もカタパルト飛ばしてきました。近くにあるクリーンセンターの高い煙突から出る煙が低く這いずり回ってました。多分地面付近と上空 20 m付近で空気が変わるこの時期特有の現象だとも思います。2年前の手賀沼田んぼでも秋口にたぶん 10 月初旬の早朝に何度か経験した空気の状態と同じに思えます。こんな空気の日は飛行機は散々な飛び方をします。一見無風で良い条件のように見えますが全体に下降気流があって滑空はずぶずぶと沈んでまったく浮いてくれません。スパン30cm、8gのカタパルトも高度も浮きもまったく良いところがなく、25mの高度から35秒で降りてしまいます。



グラフはレイノルズ数14,000のアスペクトレシオ6.6の楕円翼を持つハンドランチ機体全体の風洞データです。このカタパルトはこの風洞モデルを一回り小さくした感じですが、軽いので滑空速度が小さくレイノルズ数9,000付近で飛んでいると思われる。レイノルズ数変化により空力係数が大きく変化する領域で、たぶんこのグラフよりもかなり性能が落ちていると考えられます。滑空中の空力係数は $CL=0.6$ 、 $CD=0.11$ ぐらいではないかと推測します。この時の滑空比は $CL/CD=0.6/0.11=5.45$ と計算されます。今日の実飛行の滑空速度を 3.2m/s とすれば沈下率は $\omega=3.2/5.45=0.587\text{m/s}$ 、25mからの滑空とすると滞空時間は $T=25/0.587+2=44.6$ 秒。今日の空気の状態からすると計算がほぼ当たっているように思います。ゴムをもう少し強力にして30mまで上がったとしても55秒ほどしか飛ばない感じです。「レイノルズ数の壁」かなりの

の強敵です。アメリカのこのサイズのインドア記録100秒オーバーは凄い記録なんだと改めて感じます。どうやったら実現できるのかまだまだ研究が必要なようです。

■ カタパルト機の空力係数検討

⑩.....石井満

風洞試験データより上のグラフを作ってみました。滑空における性能を表す数値がレイノルズ数の変化でどのような変化をするのかを検討します。実験データをいじくり回すのはあまりほめられた事ではありませんが30m天井用インドアカタパルト($Re9000$)の設計方針を固めたいと思いこのグラフを作りました。まづは最大揚抗比ですがほぼ直線状に変化しているようです。

このままの比率で変化すると考えるとレイノルズ数9,000では最大揚抗比は7.5程度になると考えられます。今朝の見積値よりは大きくこれぐらいなら意外と行けそうな値です。

次に滞空時間を最大にするCLとCDの関係は通常 CL^3/CD^2 の大きさを表されますがこの式を

変形して直接沈下率を求める形式の $(CD^2/CL^3)^{0.5}$ を各レイノルズ数における最小値を抜き出し比較します。

このグラフもほぼ直線状に数値が変化しているようです。レイノルズ数が小さいほど沈下率が大きくなる事が一目で解かります。たとえば $Re30,000$ での沈下率を1とすると翼面荷重を同じに相似形で半分の大きさの機体を作った場合 ($Re15000$ となる) 沈下率が1.5倍になることを示しています。

$Re9,000$ の場合このまま直線状に変化すると考えると約0.18となります。風洞データ $Re14,000$ の値の13%増しの沈下率となる予測です。

このグラフが意味する所については日を改めてもう少し突っ込んで検討してみたいと思います。

レイノルズ数を重視するのかアスペクトレシオを重視するのかそれともこれらを見捨て翼面荷重に活路を見出すかの判断が見えて来る事でしょう。

その2

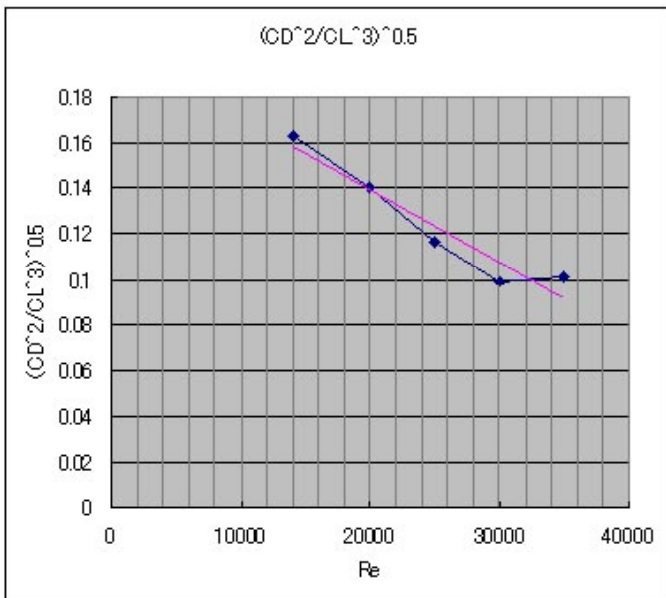
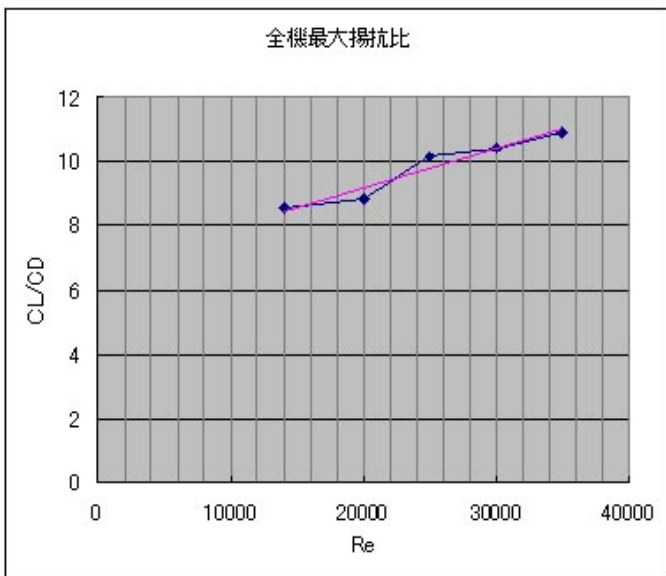
沈下率の大きさを表す空力係数の指標である $(CD^2/CL^3)^{0.5}$ のグラフを再び持ち出します。今回はレイノルズ数の違いでこの指標の値がどのような変化をするかを見てきました。また数値の変化率を使って風洞データの無い $Re9000$ の値を予測しました。相似形に縮小してレイノルズ数が小さくなるとグラフの紺色の線のようにこの指標も大きくなり沈下率が激増する結果を表しています。

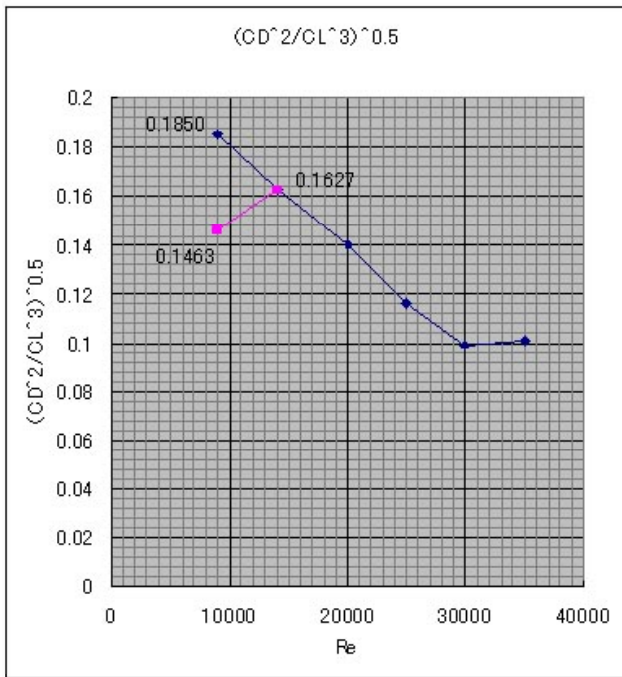
今回はスパンを変えずに翼弦を絞ってアスペクトレシオを上げるとどうなるかを調べます。翼面荷重を変えずに(滑空速度を一定)アスペクトレシオを上げると言う事はそのままレイノルズ数を下げると言う事に他なりません。したがって $Re14,000$ の CL 、 CD を使ってアスペクトを大きくして $Re9,000$ に於ける指標の値を計算させます。アスペクトレシオを上げると誘導抵抗が減って滑空沈下率が小さくなります。計算の結果 $Re9,000$ での指標の値は0.1463となりました。

さてここからが問題です。 $Re10,000$ 近傍に於いてスパンと翼面荷重を変えずにアスペクトレシオを大きくした場合沈下率は大きくなるでしょうかそれとも小さくなるでしょうか？

答えはグラフの紺色の線とピンク色の線の差し引きとなります。つまり $(0.1850+0.1463)/2 = 0.1657$ となり僅かですが沈下率が大きくなる事になります。

結論： $Re10,000$ 近傍では翼弦を絞ってア





スペクトレシオ(6.6付近での)を大きくしても沈下率の向上は期待できない。逆に僅かだが沈下率が悪くなる可能性が高い。アスペクトレシオによる効果とレイノルズ数による悪化の程度はほぼ同じで翼平面形による性能差はほとんど無いという事ができるでしょう。したがって次に作るインドアカタパルトの設計方針は翼平面形は変えずに軽くして沈下率を下げる方向とします。軽くなるので剛性を確保するのが課題になってくるでしょう。また軽いと同じゴムを使っても初速は上がって高度も増すように感じますが翼面荷重が小さくなるので減速率が大きくなり逆に高度が出なくなる事が予想されます。30 m天井まで打ち上げるにはより強力なゴムが必要でゴム張力と速くなる初速に耐えられるように剛性を上げつつ軽量に仕上げる必要性あります。

いやあ～私の工作技術では大変な難題になって来ました。(汗汗・・・)

■ F1B情報

⑩.....平尾

当会報は面白いものがあればどんなヒコーキの記事を載せるようにしています。しかしながら、国際級となると、特に大型のF1A、B、Cになると、この分野日本では自作をしている人が少ないので情報が少ないのです。結局はアチャラカの情報になるのですが、そのあたりご勘弁を・・・

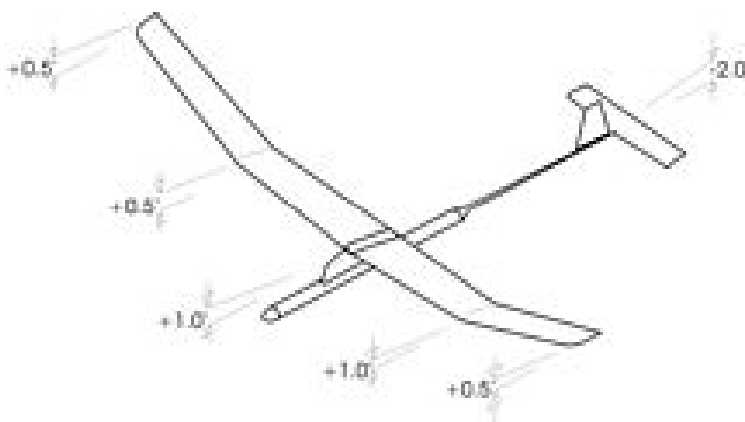
今回はF1Bの情報です。久しぶりにアंक(A、アンドリュコブ)のホームページを覗いてみると、技術欄に販売している機体のセッティングについての記事を見つけたので、図面を転載し紹介します。

1. 重芯位置

翼スパン152cmの機体の重芯位置は54%～57%、スパン180cmの機体の重芯位置は55%～59%にするべきである。この重芯位置は一般的である。

2. 主翼のねじりについて

「正しい翼のねじりは重要である。機体から2m程離れて、貴方の眼を機体に平行にして、主翼下面を観察する。そして滑空時におけるねじりは下図のようにするのが望ましい。上昇時には右翼をわずかに下げるべきである(ウイグラー)」と



った前説があつて図がある。

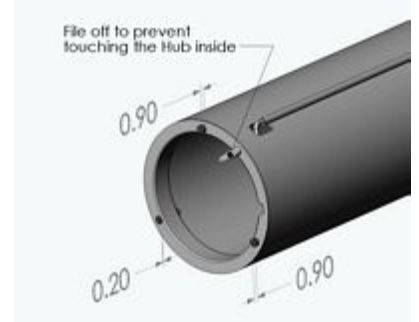
この図によると、滑空時の左右翼のねじりが違って、右翼のジョイント部分迎角は+1.0度、翼端で+0.5度となっていて捻り下げがある。左翼はジョイント部分+0.5度、翼端で0.5度となっていて、捻り下げがない。このようなセットすると、ほとんどラダーを切らなくても右旋回するはずである。そこで添付している垂直尾翼の図を見ると、翼のふくらみは左右違ってはいるもの

の滑空時はほぼ中立である。このことからこのねじりは滑空時の旋回抵抗を最小限にする工夫なのであろうか。現在のF1Bには大部分ウイグラーが付いているので、主翼の滑空時の抵抗は極限まで減らしているではなかろうか。感覚的には主翼左右非対称はなるべくやりたくないのもので、このセット

が数字的にどの位有利に働くのか知りたいところである。ともかく、この機体を買うとこのセッティングになっているので、翼が曲がっていると思い直してしまうとアカンのですよ。買った人はまず、そのまま飛ばしてみてもOKならそれでしばらく様子を見るべきでしょう。どうしても気に入らない場合は変える事(と言ってもねじりを変更するのは面倒ですがね)になるのでしょうか。

3. プロペラ・スラスト

これも右図面に提示がある。この設定にするとサイド、ダウンとも何度になるのか解らないが、何れにしろわずかである。このセッティングも一般的である。この提示の意味は、セッティングをこのようにしろという事なのか、このようになっているのでイジルナと言う事なのか……。



4. その他

これ以外にも水平尾翼の迎角の提示があるが、これはアークの完成機を購入した時に、セッティングはこのように考えて作ってあるという意味だと思う。しかし、ここまで細かい提示をされると、F1Bって何だか「ツナライナー」と思ってしまうのだが、皆さんはどうですか。

また、アークは現在も2005年4月の競技用ゴムが写真では表示している。これを現在も販売しているとすると性能的にこのゴムが良いとの評価だろう。とすると余談だが、このゴムは織間さんが大量に採ってくれたので私も持っている。しかし、もっと調べてみると現在実際に売っているのは2007年6月は在庫があるらしい。今年の1月のゴムが入ってきているようだが、こいつ「素晴らしい」と言う意見と「柔らかくてダメ」と言う意見がある。これよりも2005年4月の方が良いとも言っていたが……。

現在では明らかにこれが優れているといったF1Bに関する情報はない。しかし、ここまで完成機購入が一般的になると、選手の飛ばし方の勝負になるのか……。動力ゴムもスーパースポーツしかなく、適当に購入して良いゴムが手に入れば、それは好運である。各選手は、それぞれのゴムの最大パワーを発揮するようにテクニックを駆使して巻く。そして、いかに神経を使って飛ばすかによって誰でもチャンスがあるのではなからうか。

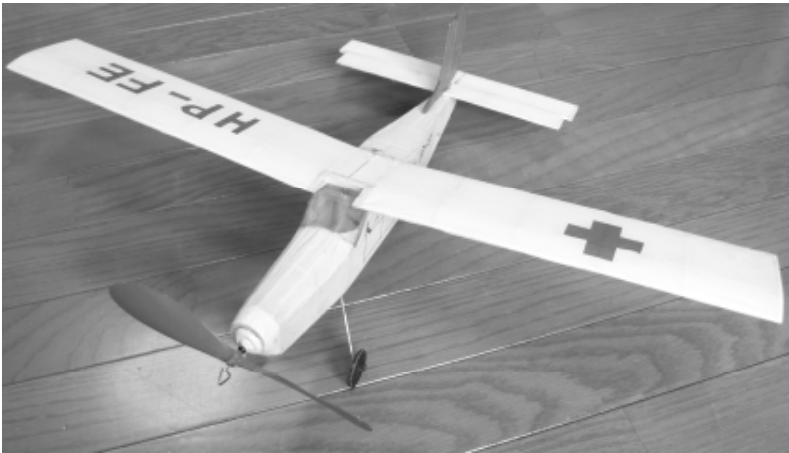
■ スパン50センチ級スケールモデル ピラタスポーターの製作

平尾……⑩

前説

はじめに宣言する。「ランチャーズはHLGばかりやっているグループではないのだ」。実質は飛ばす物がバラエティーに富んでいるのがランチャーズなのである。と言う事で今回はウオールナッツ的スケールモデル「ピラタスポーター」の紹介である。

スケールモデルには様々な大きさのものがあるが、ピーナッツ級モデルは特に有名である。規定ではスパン33センチ以下のとても小さなモデルで、一見取っ付きが良さそうに見えて、実は作るのも難しく飛ばすのはさらに難しい。飛ばすのが目的になると、模型飛行機は大きいほど飛ばしやすくなるので、少し大きいめのサイズとしてウオールナッツ級(スパン43センチ強)がある。このクラスなら初心者でもソコソコ作れて見栄えも良いし、飛ばす為の調整も解りやすく、小さな公園で飛ばすにも適当である。且つ、この大きさだとバラして運ぶ都合も兼ねて、降下装置も付けられる。そんな理由からウオールナッツ級について調べてみた。しかし、アメリカのAMAにもそのような規定がなく、又、日本で販売されたスケールモデルのほとんどがスパン48センチクラスが多い事がわかった。且つ、日本ではピーナッツスケールモデル競技はあるもののウオールナッツ級の競技会は開催された例がない。そもそも日本では栃木大会以外でピーナッツ以外のスケールモデル競技会をやったのを聞いた事が無い。さて、こうなると機体の大きさをどうするかで困ってしまった。そこで私が現在持っているモデルのスパンを測ってみると48cmが2機、45cmが1機である。但し、図面化する場合はスパン43cmサイズだとA4サイズにきれいに収まるのだが、50cmサイズになるとB4でないと入らないのである。そこで参考までにピラタスポーターをスパン43cmに縮めて作ってみた。48センチと比べて骨材も華奢でピ



一ナツスケールに近い感覚的で真に頼りない。スパン比43cm/48cmは容積比では30%もの差になり感覚差は思ったより大きい。結論として入門機として過去に京商で発売していた「ピラタス・ポーター」を下敷きにした軽量化モデル、スパン48cmの機体を紹介することにした。さて、次になぜピラタス・ポーターなのか。これには当然ながら理由がある。スケール機には見せる為の物と、飛ばす為の機体がある。私は飛ぶヒコーキ

が好きなので、飛ばしやすいスケールモデルにのみ興味がある。となると、まず複葉機は作りにくく抵抗も多いし飛ばしにくいからボツである。次に、主翼面積が小さく、胴体の細いモデル(ゴムが入らない)もダメである。また、ノーズ部分がやたらと短い機体(空冷エンジン機)も飛行バランス取り難くて推薦できない。また、やたらと曲線部分の多い機体(特に胴体)も作りにくいので遠慮したい。となると残るのは、主翼が大きく胴が四角くてノーズが長く、どこもかしこも四角いヒコーキが推薦となる。私がぜひ作ってみたい飛行機にドイツの「ヒゼラーシュトルヒ」がある。この機体はSTOL機(短距離離着陸機)で、連絡機として第2次大戦で大活躍をし有名になった。但し、主翼取付部分の胴体が複雑で簡単には作れそうにない。そこで同様なSTOL機で、現代的な設計になって、且つ貨物機としても使えるピラタスポーターは、初めて作るスケールモデルとしては作りやすく理想的である。ついでながら、その他で私が推薦する機体となると、セスナ・バードドック、オースター・オートカー、3式指揮連絡機等と数が限られているが、飛ばしやすさから全てが高翼機である。今回は頑張って大好きで有名なヒゼラーシュトルヒを、ぜひ紹介したいと思って、鋭意資料を収集中であるが・・・。

1. スケールモデルの特色

実機は操縦する為に主翼に比べて胴体が短く、尾翼面積が小さいので、そのままフリーフライト機にすると自立安定性が悪く飛ばない。このあたりをどうアレンジすればフリーフライト・スケールモデルとして飛ばす事が出来るかが問題となる。その為にやる事はほぼ決まっています、①やや胴を長くする、②尾翼面積(垂直、水平共)を大きくする、③主翼に上反角付ける等の工夫が必須である。

有名な模型設計者のモデルでも、いざ作ってみると飛ばない機体がある。その理由は、設計者はスケール機の専門家なので、これの為に蓄積した特殊技術を駆使して無理やり飛ばしてしまうが、初心者には出来るわけがない。そこでどうしても上手く飛ばない時は、まず重心位置をガンガン前進させる事(機体が重くなる)、それと尾翼面積さらに増やす事でほぼ飛ぶようになる。但し、何れも実機のイメージを大幅に違えてはダメである。

2. スケール機の飛び方

スケール機の場合よく間違えるのは、その飛ばし方である。スケール機は純粋競技機ではないので、ガンガン上昇させて滑空で時間を稼ぐ飛ばし方は間違っている。ましてや、ほとんどのスケールモデルは第2次大戦以前のものなので、ビュンビュン飛んではいけないのだ。スケール機として目を楽しませるには、5メートル程度の高度をゆったりと飛ばすのが理想的なのである。であるから、動力飛行時間が長い方が望ましい。特に第1次大戦の複葉機などは、危なげにヨタヨタと飛んで上昇もしないで、且つ、降りないでいつまでもフラフラ飛んでいるのが良い飛び方である。

このような前提で飛行機を作るとすると、完成重量は25グラム以下、動力ゴムは2.5g程度で3.2ミリ2条で飛ぶようにしたい。スパン50cmクラスの場合、3.2ミリのゴムを約60センチ長で約2.5グラム搭載すると、機体との重量比約1/10となる。このゴムで小おおよそ千回程度は巻けるので、上昇時間30秒以上で飛行時間1分となって、公園で飛ばすのに最適となる。ゴムを増やせばガンガン上昇するが、スケール機は競技機ではないので、それはお勧めできない。

3. 製作について

面倒だがまず図面を参考にして製作図を作る必要がある。今回添付の図面はA4サイズなので、これをB4サイズに伸ばしてから使って欲しい。さらに主翼平面は片側しかないので、もう半分は面倒でも作って下さい。主翼尾翼胴体の製作時は図面を平らな板に貼り付けて、その上にサランラップを被せる。そして図面の上に材料を重ねてピンで仮留めし、瞬間接着剤で付けていくのが基本である。初めて製作する時には「軽く」よりも「丈夫さ」に注力してください。

* スパー

まず、板厚2.0mmと1.5mmの板(比重0.12以上)から棒材を切り出す時、カッターナイフだと切り出したスパーが曲がりやすいのでダメです。必ずレーザーソーでゆっくりと切ってください。必ず必要本数より多めに切り出して、その中から曲りのない棒を選びます。そして次に複数の棒の切断面をそろえるためにスパーを数本まとめてサンドペーパーで削ります。作業が完了しても曲がってしまう場合は、組み立てる場合に反りを逆に合わせるように組み立てます。

* リブの切りだし

必要枚数より多めにバルサ短冊(47mm×5mm×1.5mm、16枚)を作ります。そして板をそろえて下面をセロテープで接着し、それを作業台に置いて上面を翼型にカッターナイフでざっと整形します。その後サンドペーパー(280番以下)で翼型に仕上げます。スパーの溝は金切り鋸(歯が厚い)でざっと切り込みを入れてスパーを差し込みながらヤスリで仕上げる。

* 組立

胴体は側面図面上に材料を載せて虫ピン等で仮止めし瞬間接着剤で接着する。1枚目が出来たらその上に更にサランラップを被せて、2枚目の材料を重ねて作る。四角く胴体を仕上げる時、側面を2枚平行に立て、直角定規等で正方形になるように確認する。その後上下の材料を接着する。厚紙で箱形に直角を出したジグを何枚か作っておくと便利である。主翼尾翼は接着が完了したらカッターナイフで図面からはがす。そして全体をひねってみて接着状況を確認し、怪しい部分は接着剤で補強する。ノーズのプロペラ受けの部分は極力軽いバルサ板を板目を90度ずらして数枚貼り合わせ、ナイフで整形する。その後サンドペーパーで仕上げる。次にプロペラ付きのノーズ部分の差し込み部分(四角い凸型)を作って、それに対応する胴体の受け部分に四角い穴を開ける。この部分は調整時に削るのでぴったり合うように作ること。骨組みがほぼ出来上がったら、防水性能の向上と強度向上のため2回ほどラッカーを塗る。乾いたらサンドペーパーで全体を擦ってバリをとる。この時、ひずんでいる所は接着剤をはがして出来るだけ修整する事。

* 紙張り

紙を貼る場合、あまり引っぱりの強い紙(フィルム等)は骨が曲がるので注意する。特に霧吹きやアイロンかけをする場合は骨が曲がらないようによく観察してください。紙張りが終わったら防水のためにラッカーを2回ほど塗って下さい。スケールっぽい塗装やデカールはインターネット等で好きな機体を調べて考えて下さい。このスケールモデルは飛ばすことが目的なので、スケール度はいい加減にしています。

5. 飛行

この機体は素直で、このままでもソコソコの滑空をする筈です。問題がない時はプロペラスラストをいじって上昇調整にかかります。この機はゴム動力なので、右旋回上昇左旋回滑空が基本です。

しかし小型なのでプロペラスラストには敏感で、少しづついじりましょう。最初は手巻き100回から始めてゆるい右旋回上昇をするようにノーズブロックを削って調整します。この場合主にダウンスラストを付けるようにし、サイドスラストは少なめにしてください。最初の段階が終わったらプロペラ巻き数を200回、300回と増やして、旋回上昇のぐわいを観察して下さい。軽く頭上げをしながらゆるやかに旋回上昇するように調整します

。しかし、不安定で綺麗に上昇しない場合は、水平尾翼をいじって翼全体の迎角を調整します(この場合のほとんどは水平尾翼の後縁を下げる筈である)。この大きさのスケール機はあまり滑空が良く

ないので、あくまでも動力飛行時間を稼ぐように考えること。その為には軽く作って少量のゴムで長時間プロペを回せるようにすることが必須である。ようするにプロペラの回転時間を長くする事がコツで、3. 2mm×2条×40cmのゴムで約1200回巻ける。この場合はモーターランが40秒超になるので滞空時間は1分は固い。この後の調整は実地を見ながらでないといく言い難いので、遠慮なくご連絡下さい。図面別添

◆ 雑談天国

◆ 極西の国・日本

平尾……⑪

この欄、いつも行き詰まって頭を悩ませる。それなら止めればよいのに、止めたくないない何かがあるのだ。そこで今回は、前々から何時かはこれを書こうと思っていたが、まだ全くまとめる自信のない「極西の国・日本」(極東の日本ではない！)と題して書くことにした。が、はたしてまとまるかどうか。

なぜ「極西の国・日本」なのか。確かに日本人は東洋系であり、中国文化の多大な影響を受けて、今の日本があるということに異存はない。しかしながら、最近世界をさわがせる様々な出来事を見てみると、日本が東洋圏にありながら全く東洋的でものが多くある事に気がついた。その1つが道德である。しかし、その前に4大文明発祥の地中国文化に言及しなければいけない。

日本が中国文化の中で多大の影響を受けたものに文字がある。しかし、文字(ラング*)そのものはともかく、日本で現在の使っている述語(シニフィアン*)で中国語そのままのものは少ない。この表現、ん・と思うでしょうが、実は現在使われている漢字述語のほとんどは日本語である。

例を挙げて説明しよう。わかりやすい例は数学用語である。奇数、偶数、素数、微分、積分等という言葉は全て日本語である。日本には江戸時代すでに関孝和を代表とする高等数学者がいた。しかし、高等数学概念のない中国に、このような言葉が存在するはずがないではないか。

では誰が作ったか。明治になって漢学者とキリスト教の聖書学者達が、日本語に翻訳できない述語を議論しながら創ったのである。これが基礎となって、抽象概念用語のほとんど、例えば神学、哲学等から始まって、身近なものでは電気、電波、機械、学校、病院、自動車等々我々が現在使っている述語のほとんどは明治に作られたのである。この作られた述語の見事さを1つだけ紹介すると、「機」とはエネルギーが満々と充滿しまさに動きださんとする状態を現す。そして「械」はある規律の中でとうとうと動く様をいう。であるから「機械」とは、ドンとスイッチが入ると轟音を立てて止めどなく動くモノを意味するのである。

なぜ新述語が必要だったのか。この時代、ともかくも西洋文化を理解しないと世界で遅れをとると考えた明治政府は、まず国民の教育を考えたのである。教育には理解に適切な言葉が必要で、欧米語にあって日本語にはない述語を全て作ったのである。このことは案外知られていないが、私はこれが明治維新最大の功績であると考えている。

当時、高等数学を自国の言葉で教えられる国は東洋圏では唯一日本だけであった。現在でも欧米語を習わないと数学が理解できない国は世界にあまたある。当然ながら韓国は創られた新日本語をそのまま韓国読みにして現在も使用している。また中国もこれらを逆輸入して使っているが、決して日本の造語であることを認めようとはしない。もう1つ、中国韓国には古い書籍は驚くほど残っていないのである。なぜならば、元以降のほとんどは他民族国家であり、新王朝が滅ぼした前王朝を讃える書籍を抹殺するのは当然である。韓国でも同様で1,300年以前の書籍は残っていない。中国韓国は古書のない国なのである。あれだけ国内戦争をしていては残るはずもないが。

では何処にあったのか。当然ながら正倉院に代表される宝庫を持つ日本である。近代になって日本にやってきた中国人(魯迅等)は、日本に残っていた中国本を読んで祖国の3,000年の歴史を正に発見したのである。毛沢東すら焚書坑儒をやったのだから、これは当然である。

次に、社会制度についても中国の影響は多大であり、遣唐使遣隋使の時代から盛んに採り入れられた。宗教においても当時の新文化である仏教がインド、中国を経て今も日本で根付いている。

思想では儒教が中国で発生して韓国を経て、日本文化に大きな影響を及ぼしている。この事を考えると、日本はやはり極東の国であると思える。しかし、中国から様々な社会制度を輸入したが、日本が決して採用しようとしなかったのにもものがある。それは科挙と宦官の制度である。唐の時代すでにこの2つの制度が出来上がっていて、中国の政治制度として重要な位置を占めていた。隣国韓国はこの2つを輸入し自国の制度としたが、日本は採り入れなかったのである。

韓国においては科挙は貴族になる道筋だったのである。ちなみに韓国では李王朝末期(明治時代)には両班(リャンバン、貴族の1種)が70%にもなって国が滅ぶ原因となった。なぜなら両班は税金を払わないのだから、残りの30%の人民の税金で国が成り立つわけがないではないか。

医学が進歩していない当時、健康な身体の一部を切除すると言うむごい宦官制度により、去勢した男の1/4が死んだという。権力者一族が全ての利権を握る中国、韓国の王朝のあり様から、王族の保身の為に、子孫を残せない宦官が重用された結果だと言われている。この宦官の制度は東邦独特のもので西洋にはない。そして日本には今に至るまで宦官は存在しなかったし、科挙もなぜか日本は採用しなかった。これは日本人の独特の道德感によるものである。この道德観の差が、その後の日本と韓国に与えた影響は真に大きいものがあり、現在の国力差となっているといっても言い過ぎだろう。日本は古来よその国のまねばかりしてきたように言われるが、決してそうではない。自国に向かないものとか、理解できないものは日本はガンとして受け入れていない。

イスラムにも宦官が存在するが、西欧に宦官がいないのはキリスト教の影響である。であるから、キリスト教国以外で宦官がいないのは日本のみである。しかし、宦官はともかく、キリスト教国もなんだかんだと理由をつけてこれまでも残酷なことを平気でやってきた。

16世紀にヨーロッパは航海時代に入って、東洋に行ってみると欲しい物だらけだった。しかし、ヨーロッパには実は売物がなかったので略奪に励んだのである。そこで黒人は人間ではないと定義をして、アフリカから黒人をさらって売り飛ばした。当時さらわれた黒人は4,000万人と言われるが、輸送途中に1,000万人が死んで海に捨てられている。このように人や動物の大量惨殺、例えばドウドウ鳥やバッファローを絶滅させた自然破壊は西欧の専売特許であった。近代にいたってもこの流れのママ、彼らはむごいことをやっている。

イギリスは産業革命を起こした凄い国と思われている。しかし、実際は失敗したのである。産業革命後の機械生産品をどう工夫してもインドの家内制手工業の品より安くならなかったのである。インド産キャラコを輸入していたのは当然ながらイギリスの東インド会社であるから皮肉なことである。機械化したからと言って物価の安いインド製品に勝てないのは、国ごとの経済格差から言って当然であるが、当時はそれが理解されていなかったのである。しかし、イギリス人は産業革命が世界を変えると信じていたので、その事に邁進した。でイギリスは何をしたか。

まず、インドのダッカを代表とする町の工場を破壊した。それでもダメなので、次にインドの織布工の手を切り落とした。その結果「インドの木綿織布工の骨がインドの平原を白くしている」と言われたのである。そしてダッカの人口は15万人から3万人にまで減少する。こうしてイギリスはようやくインドにキャラコを売りつけることに成功した。ついで清にも売り込んだが、当時の清ではそれよりさらに安く綿を作っていたので買わなかった。そこで清にアヘンを売りつけて拒否されると戦争をしかけたのであるから、紳士の国とは何処の国のことだろうか。だが、西欧は極限まで行くとローマ法王庁がダメ出しをするので、徐々にモラルが確立されてきたのである。西欧ではやりたいことを通す為に、したたかに神と取引をするのは常識である。しかし、神が拒否したと理解するとそのルールは守られる。

日本は古来から道德感の優れた民族であった。その為、16世紀に西欧社会が初めて日本のことを知った時、東洋にも西欧よりもモラルの高い国があるのを知りタマゲタのである。そして宣教師がキリスト教布教の為当時の文明国日本をめざし、そのことが大航海時代を後押しした。そしてコロンブスは極西の国・日本に向かう途中でアメリカを発見した。

また東洋と西欧では「死」に対する考え方に大きな隔りがある。端的な例として靖国神社問題がある。日本人は、どんな悪人では死ねば全てを許すのが当たり前である。西欧でも古来死者は全

てが許される。ローマ時代から死した敵将を丁重に扱う等、死者への考え方は西欧と日本人と共通している。しかし、中国韓国では悪人は死んでも許されない。であるから悪人がかくれて死んだのが発見されると、死体を吊したりバラバラにして道に撒いたりして、死んでからでも処罰するのである。だから戦犯が靖国神社に祭られることは、中国韓国では決して許せないのだ。

さて、ここらあたりでソロソロ本題に入ろう。アラブのテロや最近の中国の食品問題、北鮮の非国家的行為は、何れも東洋の道德観をよく現している。又、今回オリンピックでくり広げられたスポーツの戦い方。例えば欧米の柔道の戦い方、韓国選手のバドミントン選手の実にいやらしい戦い方、欧米サッカーの違反すれすれの行為や見えないところでの違反、また、ドーピング問題等いずれも彼らの道德観の表現である。これらから比べると日本の戦い方は、悔しいぐらいにフェアである。なぜなのだろう。これこそ、日本人が誇るべき優れた特質である。

日本人が桜が大好きであるように、勝負の勝ち負けも自己のルールに従って「負け」と認めるとサッカーと引いてくる。あとで悔しい思いをするのだろうが、これは日本人の長所であり、勝つ為にと行ってこの清い生き方は変えるべきではない。私はこのような日本の戦い方に、欧米が実際はどう思っているか最近、解ったような気がしている。欧米だってズルイことはやらないで勝ちたいのだ。しかし、どうにもならない場合に欲望に負けて彼らはズルをする。これは1つは神との駆け引きなのである。しかし、内心はそれを恥ずかしいと思っているのだ。そのため自分よりモラルが低い国には高飛車に出るが、モラルの高い国にはヘラヘラと機嫌を取るような曖昧な態度で、勝たしてくれたことへの感謝の表現をする。であるからフリーフライト世界選手権においてヘン事があったとしても、日本人は今後とも日本人らしく清く戦って行こうではないか。

以上に様な事例から、私は最近日本の道德観は東洋では異端児であり、どちらかというと西欧に近いと考えるようになった。日本は現在東洋らしくないと、隣国の中国や韓国からボロクソに言われている。そこで提案したいのは道德上は今後は「極東の国・日本」ではなく、「極西の国・日本」と考えるのが正しいと思うのだが如何。

注* : ラングとは、ソシユールの言語学定義で暗号解読用コードを意味し、シニフィアンはその中の1つの記号を意味する。2つの言葉とも適当な日本語はない。今回の表現は必ずしも適切ではないが言語学に則っての話は、この欄では困難である。興味がある方は「ソシユールの言語学」に関する本を読みたい。

編集後記

平尾……⑬

* これまでは様々なグループと共に飛行場を共有してきましたが、ランチャーズもイヨイヨ巣立ちの時です。もともと広い場所が必要なFFは「継子」で、もともと合法的に使える場所などあるはずがありません。これまでも多磨ニュータウン、幕張埋立地や千葉ニュータウン等、裏から手を回したとは言え、入ってはいけない場所に侵入して使ってきました。現在では経済が停滞しているので、これまでの様な使える未開発地は首都近郊では皆無(管理が悪く草ボウボウ)となり、残るは農閑期の田んぼのみとなりました。冬の稲刈り後から田植えまでの間の田んぼを「いいだろう」と、我々が勝手に使っていたわけです。またFFのヒコーキは勝手に飛ぶので、どうしても田を踏み荒らすことになりお百姓さんには迷惑な話です。ですから100%地元が了解してくれる場所があるはずはありません。少数の反対者がいるのは当たり前で、そこまで気にしていると飛ばす所はありません。だからといって遠慮していると賛成してくれた地主さんの意向を無視することにも成り難いところですが、頑張って飛ばさないと練習する場所すら無くなります。

ランチャーズは大宮田んぼで育ち、HLGがらみのFFモデラーも多く人数も増えてきました。月例会をやっているのはランチャーズが多分世界唯一で、毎回30名を超すようになりました。目立ちすぎるますよね。そこで今後の記録会は、他の場所で目立たないように続けたいと思います。と言うことで練習はべつですが、今後の競技会は他グループとの共同使用はナシとして、ランチャーズ単独で使

う田んぼ又は公園他を見つける必要があります。我々のみであれば競技中に「ダメ」出しをされても、即競技を中止することも出来ますし、他のグループに迷惑をかけることはありません。又、これまでと違った使い方も検討したいと思っています。と言うことで5、6ヶ所候補地を上げて調査したいと思っていますので、ご協力ください。

* 毎夏例年から4、5回は飛ばしに行くのですが、今年の夏は「ヒコーキ飛ばそ」のお呼びがゼンゼンかからなかった。皆さん年を取ったのと、死ぬほど暑い夏にムリして飛ばすのはバカ、との判断でしょう。正しいです。私も死ぬのイヤですし……。それにヒコーキもそう変わり映えしてないし……。

でもソロソロ何か始めなくてはイケマセン。記録会、まったけ大会、日本選手権大会、ミニ国際級大会、栃木大会と、しばらく続きますのでね。涼しくなったらまたまた、本気で走ってカラダをきたえないと若手をバカに出来ませんので(ムリかな?)。

* 会報の7、8月で発表したコンデジ用「外付けファインダー」の件。そのモデルの新製品が発表され「外付けファインダー」用アタッチメント付きです、にくいね。モデルに付いているレンズ、ライカ・バリオズミクロンも改良されて24mmの広角になって、明るさはF2.0、これ程明るいレンズはもう高級レンズである、悔しい。但し、値段は本体は約6.5万円、これに新製品の「外付けファインダー」をつけると9万3千円にもなる。ここまで高いと1眼レフが買えるので、どうなんですかね。年金のみなさんは「外付けファインダー」を作りましょう。便利しています。

* ランチャーズホームページで17年前の「カラスのTシャツ」の話が出ました。昔、KFC全盛期の頃に作られた、着倒れの京都らしい和風デザインの傑作です。今は俳人(廢人)の青山氏がデザインに絡んだとかで、とても信じられませんがホントウなのかね。ともかく、素晴らしいデザインで、世界選でこれを着ていれば、即、ハギ取られるでしょう。ですから、パンツだけはカラスの柄はダメですよ。

私はお祭りに着ていましたが、ほとんどの人が見とれるか、振り向きましたね。新幹線のホームでこれを着ていると、視線が集まる(私がハンサムだから?)のが解りました。ま・これまさに着物の柄でもんね。着物では、鶴とか、紅葉やしだれ桜とかはありますが、カラスはまずありません。KFCさん、できればぜひ再販して欲しいのですが、如何。

* ロボットスーツ・HALがイヨイヨ実用化され一般に貸与を開始した。この装置足を上げようとするのを感知して動力で補助してくれるのだ。「FFと何の関係があるの」と思う人は遅れているぞ。

現在は介護、福祉施設向けであるが、これには下半身タイプもあって、これを付けると歩けない人でもこれを付けると自由に動けるわけだ。であるから、老人になってヒコーキの回収が辛い人には朗報である。又、足が強くなるのでゴム巻きは断然有利になる。100回しか巻けない人が軽々と110回巻ける……のかな。但し、貸与料は1ヶ月22万円と高いのが気になる。

* ハイドンはどうしても理解が出来ない音楽家である。いささか古くて記憶が定かでないのであるが、ハタチ台にハイドンのオラトリオ「十字架上の7つの言葉」を歌って、あまりに素晴らしくてしばれ返った思い出があるのだ。この曲、アナログ時代に海外版のウエストミンスターでレコードが出ていると聞いて探したものの手に入らず、ようやく最近CDの抜粋盤を購入して聞いたが、時既に遅く? 昔の感激は得られなかった。もちろんハイドンは大物音楽家であるが、その他の曲を聞いていてもジンジン心に迫る曲がないように思う。「驚愕」「軍隊」「告別」「時計」等々有名な曲があるが、心打つ音楽かという少し違う気がする。どこかバツハ、ヘンデルとは1味違うのである。こひのあたり、ずっと気になっていて思い出しては彼の曲を聞いてみるのだが、最近までアタリがなかった。

ところが嬉しいことに、最近これはイイという曲を見つけた。チェロ協奏曲の1番と2番である。嬉しくて何度も聞いているが、何れも20分程度の短い曲である。実にいい。しかし、ハイドンという人、発想、着想の人で、心で音楽するひとではなかったような気がする。1000曲近くを作曲をし交響曲の父(104曲)、弦楽四重奏曲の父(88曲)と言われているが、最近是新録音も少なく人気では今一のようであり、私を感じている様に、心打つ音楽家でないのかも知れない。音楽とは難しい物であるようだ。

みなさん、貴方にはヒコーキでもジンジンと心打つ奴がありますか。

